

肥前名護屋城と文禄・慶長の役③

～「秀吉の動向」～

■秀吉の動向

名護屋築城を命じた秀吉は、1592年（天正20）3月、早々に京都を出発、4月25日、筑前深江より海路を辿り、名護屋に着陣した。

6月には、自ら朝鮮半島の渡海を目指したが、徳川家康・前田利家らの諫言により渡海を延期、1カ月後の7月には、大政所の病状悪化のため、名護屋を発ち大阪城に戻っている。

大阪城に戻った秀吉は、8月、伏見城の築城を命じるなど、活発な動きを見せ、やがて10月、再び名護屋に出陣する。その途中、博多で、神屋宗湛宅の茶会に臨み、11月に着陣。名護屋に着いた秀吉は、すぐさま、山里丸で、神屋宗湛などを招いて、茶室開きを行っている。

その後も、能会を催したり、自ら能を学んだり、さらには、明の使節を茶会や船遊びに招いたり、商人に変装して武将たちを慰めたりと、いかにも秀吉らしい、人心掌握に長けた動きをする一方で、朝鮮・名護屋在陣衆の逃走を禁じるため、諸大名の領内に人留番所の設置を命じたり、波多三河守を改易するなど、その気配り・目配りは、策士秀吉の面目躍如といった感がある。やがて淀殿が大坂城にて秀頼を生み落としたことを契機に、再び名護屋を発ち、その後は、伏見城・大阪城から指揮を執るようになる。戦況が悪化する中、撤退や縮小の進言を一切撥ねつけ、最後まで朝鮮半島にこだわりを見せたが、1598年8月、伏見城にて、その波乱の生涯を閉じた。享年61。

分野 歴史

地域 鎮西

◎地図・写真・統計資料など



名護屋城本丸新能

(観光協会より)

◎引用・参考文献（出典）

◆佐賀県名護屋城博物館提供

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html